

また近年、技術の海外流出が話題となっていますが、菅原精機では自社の技術やノウハウの流出を徹底して防止することで、その金型から作られる製品と海外で複製された製品の差別化を図っています。



一つひとつ手磨きで仕上げる金型。

菅原精機は、昭和24年創業の金型メーカーです。菅原社長自らニッチな分野と話す通り、金型が表舞台に出ることはありません。しかし、同社が作る金型は電子部品から薬剤に至るまで幅広い分野の製造現場で使用されており、社訓である「ものづくりの黒子たれ」に表わされる通り、日本のものづくりを根底から支える役割を果たしています。

金型製作には、常に精度向上を図ること、コストダウンに対応することが求められるため、高い技術力と経験が必要です。菅原精機では顧客の要求以上の「暗黙のニーズ」にも応えるために、営業部門を設けず、金型製作担当者が直接顧客の要望を聞き出し提案しています。

また、品質管理や納期厳守のために、毎日欠かさず行っているのが、担当者間のミーティングです。管理システムに任せきりにせず、社員が自ら工夫することで、社内の活性化にもつながっています。

製作工程にもこだわりがあり、金型表面に施す高精度の鏡面加工では、一つずつ熟練した手作業で磨き上げます。顕微鏡をのぞきながら精密な金型を磨く社員の皆さんを見て、「修煉を積みながら、熱心に取り組む様子は正に職人」と村田部会長も感心。菅原社長も「最先端の技術にも、アナログ的な人の力は必要」とものづくりに懸ける熱い想いを話されました。

自社技術で日本と世界の差別化を図る

あらゆる顧客ニーズに応えるための工夫



菅原社長(左)と村田部会長。社訓「ものづくりの黒子たれ」が光る。

こんにちは!
〇〇部会です

部会長の部会員訪問
電機・機械金属部会編

ものづくりの黒子たれ!

確かな技術で
最先端の日本製品を支える

菅原精機株式会社

会員との“つながり”拡充を目的に、本所の12部会の部会長が部会員の皆さまを訪問いたしております。今回は、電機・機械金属部会の村田恒夫部会長が、菅原精機(株)を訪問し、菅原一博代表取締役社長からお話を伺いました。

電機・機械金属部会のご紹介

〈部会長〉村田 恒夫(株式会社村田製作所 代表取締役社長)
〈部会員数〉801件(2011年12月22日現在)

電機・機械金属部会では、毎年2回の視察見学会を開催し、幅広い分野の企業(団体)を訪問しています。部会員同士の交流の機会として、また、各企業の魅力を発見し自社取り組みに生かしていただく機会として、ぜひご活用ください。皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。

【年間事業予定】

年2回(9月頃/2月頃)「視察見学会」
不定期 「講演会」

【お問合せ】

電機・機械金属部会 事務局
(京都商工会議所 産業振興部)
TEL: 075-212-6443
E-mail: shinkou@kyo.or.jp